

# ハワイの女性に学ぶ

## 困難に打ち勝つ子供をどう育てるか

### 児童教育、女性学の中島教授

「ハワイに来て本当に良かった」と語るのは、茨城キリスト教大学文学部児童教育学科の中島美那子教授。研究休暇（サバティカル）でオーストラリアのクイーンズランドへ行く予定であったが、コロナ禍で入国できず、急



中島 美那子さん

茨城キリスト教大学  
文学部児童教育学科教授  
公認心理士  
臨床発達心理士

遽目的地をハワイに変更したという。発達障害児童の教育などが専門の中島さんは、調査研究のためにハワイ大学とも連絡をとっているが、同時に移民や移住した日本女性の多いハワイの特性に注目し、「女性

学」を通して、児童教育についてアプローチを試みているという。中島さんは小紙を訪ね、「ハワイの日系や邦人女性と日本の女性との違いが教育姿勢の違いとあっており、学ぶところがたくさんある」と感想を述べた。中島さんは発達障害児童教育とともに、長年女性学にも携わってきた。地元茨城の高齢女性を中心に、戦後、如何に困難を乗り越え、新しい日本の女性像を作り上げてきたのか、学術的な研究をしてきた。

劇的な変化を遂げた戦後の日本女性も、国外で生活してきた日本女性とは違いがあるのは容易に想像できた。しかし、今回、面談するとその差はかなり顕著であると実感したと言う。日本では戦後女性は自由になったと言われるが、社会全体の目は米国（ハワイ）とは比較にならないという。今でも世間体というしがらみは厳然として残っており、服装でも年相応とかの暗黙のルールがある。現在、女性性は社会進出で評価され

る一方「家庭は？」「子育ては？」との質問が必ず後に付いてくると言う。「この女性が家庭、子育てを含め、社会進出を果たしたのは、日本にはない困難を乗り越えて得た“自由”が力となったのではないか。この女性に学ぶところが大と感ずる」と語る。現在、中島さんは帰国しているが「もっと、教えていたきたい」と2月にハワイを再訪する。インタビューに対応できる方はハワイ報知までご連絡を。